

令和三年度

入学試験問題

国語

注意

- ・問題は十二ページにわたって印刷してあります。
- ・試験時間は五〇分です。
- ・声を出して読むではいけません。
- ・答えは、問題の指示に従って、解答欄の決められた場所に濃く、はっきりと書きなさい。
- ・答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- ・字数指定のある問いはすべて、句読点・記号も一字と数えるものとします。
- ・答えはすべて別紙解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。

法人
学校

東洋大学

東洋大学京北高等学校

1

次の問いに答えなさい。

問一 傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- (1) 掃除機がコシヨウした
- ア 出かけるため朝六時にキシヨウする。
- イ 広範囲で通信シヨウガイが発生した。
- ウ あの人は四月から部長にシヨウシンした。
- エ 会議で新年度の予算をシヨウニンする。
- (2) キンリン住民との交流を深める。
- ア 高層マンションがリンリツしている風景。
- イ 夏休みにあわせてリンジ列車が運転される。
- ウ 東京都とリンセツする自治体で協力していく。
- エ 自転車のゼンリンが壊れてしまった。
- (3) キンチヨウのあまり声が出なかった。
- ア 外国の有名なチヨウコク作品が展示されている。
- イ 消費税としてチヨウシユウする。
- ウ 山頂からのチヨウボウを楽しんだ。
- エ 選挙の候補者のシユチヨウを聞く。
- (4) シユシヨウな心がけに感心する。
- ア あさがおのタネを植える。
- イ この家の庭はとてもオモムキがある。
- ウ コトサラに辛く当たる。
- エ 犬をテ押し車に乗せる。
- (5) 今年は景気がチンタイしている。
- ア 最近の彼にはメズラしく機嫌が悪い。
- イ 台風によりハナハだしい被害をこうむった。
- ウ 友人に本をカす。
- エ 夕日が水平線にシズむ。

問二 傍線部①～⑤の品詞をア～コからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

腕組をして枕元に坐すわっていると、仰向あおむきに寝た女が、静かな声でもう死にますと云う。女は長い髪を枕に敷いて、輪郭の柔らかな瓜実顔うりざねをその中に横たえている。真白な頬の底に温かい血の色がほどよく差して、唇の色は無論赤い。②とうてい死にそうには見えない。④しかし女は静かな声で、もう死にますと判然はつきり云った。自分も確たしかにこれは死ぬなと思った。そこで、そうかね、もう死ぬのかね、と上から覗のぞき込むようにして聞いて見た。⑤

(夏目漱石『夢十夜』)

ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞 オ 連体詞
カ 副詞 キ 接続詞 ク 感動詞 ケ 助詞 コ 助動詞

問三 傍線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しなさい。

- (1) よからぬ物たくはへ置きたるもつたなく、よき物は心をとめけむとはかなし。
- (2) かくしつつ、まうでつかうまつりけるを、……
- (3) さやうのをりふしを心得べきなり。
- (4) 帝、おりゐたまひてまたの年の秋、御ぐしおろし給ひて、……

問四 傍線部の古語の意味としてもっとも適切なものをア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- (1) いとあてにうつくしく、なかなか見え給ふ。

ア 衣服 イ とても ウ 娘 エ 愛しい

- (2) けふは、ほかへおはしますとて、わたり給はず。

ア 今日 イ 京 ウ 僧 エ 煙

- (3) 三月のつごもりなれば、京の花盛りはみな過ぎにけり。

ア 月初め イ 月末 ウ 盛り エ 晴れ

問五 次の人名と関わりの深い作品の書き出しをア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

(1) 清少納言

ア つれづれなるままに、日暮らし硯に向かひて、心に移りゆくよしなしごとをそこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

イ 春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

ウ いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひ給ひける中に、いとやんごとなき隙にはあらぬが、すぐれてときめき給ふありけり。

エ 月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり。

(2) 太宰治

ア 高瀬舟は京都の高瀬川を上下する小舟である。

イ 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。

ウ 親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。

エ メロスに激怒した。必ず、かの邪智暴虐の王を除かなければならぬと決意した。

問六 次の熟語と構成が同じものをア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

(1) 直線

(2) 国営

(3) 幸福

ア 墜落 イ 再会 ウ 授受 エ 登校 オ 雷鳴

問七 次の漢文を書き下し文にしなさい。

破^{ルハ}山^ノ中^ノ賊^ヲ易^ク破^{ルハ}心中^ノ賊^ヲ難^シ。

2

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

これは昨年（一九九一年）の元日のこと、見知らぬ人から電話がかかって来た。たまたま僕が受話器をとりあげると、松山のアクセントの感じられる壮年の男の声で、新聞で僕の兄の歌を読んだ、そこでかねてから訊ねたかったことを思い出して、という。

——亡くなられたお兄さんにとって、あなたはチャンピオンだったんですね、あの方自身が実際にこの言葉を使われました、というのが本題に入っただけの問いかけである。

——兄弟で文学の仕事を競いあって、僕が勝利をおさめたという意味あいでしたら、兄はそう考えてはいなかったでしょう、と^①反射的に僕は答えていた。おっしゃるとおり歌を作つて、短歌の雑誌も永くやっていますし、文学で短歌が最上の形式だと信じていましたから…… 兄の歌集には良い歌もあるように思います。

電話をしてきた人物は、口ごもるようにして次の切り出し方をさぐっていた。

——話のそれからの続き方で、私もね、かならずしもあなたが文学の上で自分よりまさっている、そういうものの言い方ではなかったように思うんですよ。それでもともかくね、言葉としては、^②弟が私のチャンピオンですから、といわれてね。それから咳せきこまれたので、じつはよくわからぬところもあったんですわ……

一瞬、僕は^③ある過去のシーンをくつきりとよみがえらせた。それ自体の懐かしさに安心してしまふほどだったものだ。見知らぬ電話の主がさらに話しつづけたことへ立ち戻る前に、そのシーンのことを書いておかねばならない。それは兄のなかにあったはずのチャンピオンという言葉の使い方に直接関わっている。

僕は隣町の高校に入ったところだった。仕事で松山に出た兄が、古書店で見つけたといって、僕にとっては初めての洋書を買ってきてくれた。本の外観こそ古びているけれど、本文をめぐつてみると使われた形迹けいせきのない“*The Concise Oxford Dictionary*”。それを手渡されたの昂奮こうふんは、辞書の紙の手ざわりや印刷の匂いとともに、鮮明に思い出すことができる。兄を上座にして姉たちや弟妹が坐すわっている夕食の卓袱台ちやくぶだいに僕がなかなか加わらなかつたので、とうとうその準備をした母に叱しかられるまで、僕は^{*1}CODを読みふけていたものだ。弟妹の手前、兄が、

——なにか面白い言葉を見つけたか？ と執とり成としてくれ。

——新しい言葉というのやなしに、言葉の意味の説明が、と僕はポーツと上気した状態のまま答えていた。

——語義か、ひとつ例をあげておみや。

——*champion*という言葉の、^④とって僕は食卓からひきかえしCODを開いて読みあげた。

——あなたらは、小さい人らに示がつかますまいが！ と母親はいついていたけれども、兄と僕の日頃むづにない睦み合いに不満足ではなかつたのではないか。

いま手許てこにある第六版から、あの折翻訳して聞かせたとおりに復元してみるとすれば、このようであったと思う。ある人のために代かわって戦ったり、ある主義主張のために代かわって議論する人。僕はこれまでチャンピオンという言葉から、大切なことを他の人の代りにやる役目を思いついたことはなかった。しかし、この説明になにかしつくりするものを感じる、と……

——本屋で、高校一年生には使いこなせないかともいわれたが、役に立って良かった。

あれから四十年ほどの時がたつ間、兄と僕とがチャンピオンという言葉を二度と話題にすることはなかった。しかし僕がああ夕暮ぐれの、柿若葉に風がわたる気配にかこまれた裏座敷でのシーンを時々思い出してきたように、兄もそれをずっと覚えていたのだ。

さて新年に電話をかけてきた見知らぬ人はこう続けた。

——私はね、あなたのお兄さんに、来世のこと、魂の救いのことはどう考えていられるか、と尋ねました。ところがね、それは弟に聞いてください、あれが私のチャンピオンですから、といわれたですよ。自分の方は仕事に追われて、そうしたことをゆつくり考える暇がなかった、とも。

——あなたは兄の、歌の方のお仲間でしたか？

——いいえ、私は歌も俳句も作りません。ただ新聞や雑誌のそうした欄を読むのが楽しみで…… この土地の新聞で、お兄さんが御病気で歌壇*2の選を退かれると知りましてね、その記事からあなたとの関係も知ったわけです。

——それではどういっつながりを兄と、……戦中の「予科練*3」というような……

電話の主は話*4の接つぎ穂にとまどうようにした後、個人的なつながりはなく、癌がんも三度目の入院だというお兄さんに、どうしても来世のこと、魂の救いのことをお話ししたくて病室を見舞ったのだ、自分はヴォランティアーとして宗教関係の仕事をしている、といった。

——それを付添いの兄の家族や病院の人たちが、すんなり通したということでしょうか？

——病室にはお兄さんより他に誰も居おられませんでしたよ。思っていたよりお元気で、よく話をされました。

——まったく初対面の方が、癌で死にかけている兄に、来世と魂の救いについて質問されたわけですか？

——死に直面していられる人だからこそ、ですよ。宗教のみちびきをもとめていられるかも知れない。そうであれば急を要しますから。

——そうしたことは、相手の気持もちをよく推し量はかってでなければ、理不尽だと思えますが……

僕の声はしだいに憤りを——自閉的な悲しみのまざりあっているそれであれ——あらわしていただろう。

——お兄さんは冷静に対応してくださいましたよ。それがあるものだから、あの方に委託

されたようで、お訊ねするわけなんです…… あなたは来世のこと、魂の救いのことをどう考えておられますか？

自分としてあたうかぎり穏やかに対応しているつもりで、しかしこの根本的な質問によく答えられるはずはなく、さしせまった気分電話を切ることになったが、受話器を置いたまま僕はしばらくじつと頭をたれるようであった。

⑤ 妙に豎長で、壁に構造材が剥き出されていた薄暗い病室のベッドに、兄が平たく横たわるか、上体を起して膝を立てた恰好かである。その衰弱もあらわなまま、宗教関係の人間だという見知らぬ男に問いかけられ、なんとか無難に切りぬけようとしている兄の様子が思われた。僕が東京から見舞いに行った朝は、いったん融けた雪が黒ずんで凍る、風の寒い日で、痛みどめの麻薬にウツラウツラしている兄へ妹が僕の到着を告げると、瘦せた肩がおののくようだった。

しばらくたつてはつきり眼ざめてからも、まっすぐこちらを見ることはせず、ベッドの裾に眼をやったまま、入院のはじめは病室でも編集を続けていた二冊目の歌集のことを話した。それは纏れる声音をほぐすために時間をかけての、しばしばとぎれもする話ぶりであったけれども、よく考えて準備されていた脈絡はあきらかな発言なのだった。

——きみがいう、おれの歌の、言葉の使い方が……たとえ先行の歌人の用例はあっても耳なれない、という……みどり兄という言葉だが……きみはベビイ・ベッドに寝ているか母親に抱かれている赤ちゃんを思うといったね……しかしそのままにしておくよ……きみの耳なれない、という気持はわかるが……辞書を見てくれれば……

そして口をつぐんだ兄にうながされるようにして、ベッド脇のテーブルの『広辞苑』を声に出して読みあげ、

——……そうだね、三歳くらいまでの嬰兒ということだから、僕の感じ方よりいくらか後までみどり兄なんだね。僕のまちがいでした、という兄はもうそれ以上は追及することをしなかった。

宗教関係者だという見知らぬ人物も、電話のはじめに、あなたのお兄さんの歌を『折々のうた』で拝見して、といっていたのだが、その前日、つまり大晦日の朝刊で大岡信さんが兄の歌をとりあげてくださった。あらためて僕は、耳なれぬという自分の言い方が兄の語感におとっていたことを認めていたのである……

手の届くかぎりの障子破り終へてみどり兄が新年の風に臨み

あの日、兄はしばらく眠るとまた眼をさまして、足がダルイといい、義姉に手つだわせてベッドから床にはだしの足をおろした。その右足の中指が欠けている。まだ治癒のあとは新しく、力仕事をしているの事故がうかがわれるだけに、今度は僕がビクリとおののいた。あのようにして最後の床についていた兄に見知らぬ男が来世と救いを問いかけたのだと、あらためて僕はもの悲しい憤激に頭をたれていたのだ。

そのうち他人へ向う怒りのかわりに、^⑥ほかならぬ自分に返ってくる深い気がかりが僕をとらえた。自分は森のなかの谷間に残り、代りに東京に送り出してくれた僕を、本当に兄がチャンピオンとみなしていたのだとしたら…… みどり児という言葉の正確な語義を示してこちらのあいまいな語感を反駁するかわりに、あの時、こう問いかけてきていたのだったならば……

——きみは来世のこと、魂の救いのことをどう考えている？ おれはきみが自分のかわりに、それについてしっかりした考え方を達成していてくれるもの、と期待しているがね。きみの心のなかにある辞書の、そのところを読みあげてくれ。

(大江健三郎「チャンピオンの定義」『新年の挨拶』所収 岩波書店)

* 1 OOD……The Concise Oxford Dictionary of NJU。

* 2 歌壇の選……新聞・雑誌に投稿された短歌の選定をする人。

* 3 予科練……旧日本海軍の、航空機搭乗員養成学校、およびその生徒・卒業生。

* 4 話の接ぎ穂……話をつなぐきつかけ。

* 5 折々のうた……当時、詩人の大岡信が朝日新聞に連載していた和歌や詩などを紹介するコラム。

問一 傍線部①「反射的に僕は答えていた」とありますが、「反射的に」答えたのはなぜですか。その理由としてもっとも適切なものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 文学で短歌が最上の形式だと信じてはいないから。

イ 常々自分より兄の方が言語感覚に優れていると感じていたから。

ウ 礼を欠いた電話に対して親切な返答をする気になれなかったから。

エ チャンピオンという言葉を単純に勝利者という意味でとらえたから。

問二 傍線部②「弟が私のチャンピオンですから」という「兄」の言葉の意味としてもっとも適切なものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 弟を文学者として育て上げたのは自分だということ。

イ 弟が自分の代わりに答えてくれるだろうということ。

ウ 弟が自分の代わりに東京で学んできたということ。

エ 弟の方が文学的に優秀であるということ。

問三 傍線部③「ある過去のシーン」とありますが、このシーンの季節と時間帯の組み合わせとして、もっとも適切なものをア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 晩冬・午前
- イ 初夏・夕方
- ウ 中秋・宵
- エ 晩夏・昼
- オ 新年・夜

問四 傍線部④「執り成してくれた」のはなぜですか。次の中からもっとも適切なものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア CODに夢中になることを嬉しく思ったから。
- イ うらやましがる弟妹をなだめようとしたから。
- ウ CODを買ってきたことを兄自身が後悔しているから。
- エ 遠回しに母の味方をしようとしたから。

問五 傍線部⑤「僕はしばらくじつと頭をたれるようであった」とありますが、このときの「僕」の心情としてもっとも適切なものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 質問に対してすぐに答えることができなかったことへの戸惑い。
- イ 病の床についている兄への非常識な質問に対する憤り。
- ウ 生死に関わる重大なことを今まで考えてこなかったことへの後悔。
- エ 昔の会話を兄が忘れていなかったことへの驚き。

問六 傍線部⑥「ほかならぬ自分に返ってくる深い気がかり」とはどのような心情と考えられますか。もっとも適切なものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 兄が東京へ行き、自分が故郷に残るべきだったという後悔。
- イ みどり児という語義を正確に理解できていなかったことへの戸惑い。
- ウ 見知らぬ男はなぜ兄に来世のことについて問いかけたのかという疑問。
- エ 魂の救済について兄に代わって自分はどうか答えるのかという自問。

3

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

近現代という時代は、一方には熱狂^①の時代があり、他方には近代の形成によって喪失したものをみつめながら、その克服をめざす動きが展開している、そんな時代でもあったのである。「人々」の熱狂と喪失感が同居した時代が近現代であった。

とすると近現代の喪失とは何だったのだろうか。ひとつはすでに述べたように、貨幣が価値基準になり、権力になっていく時代への敗北感だった。

だがそれだけが近代の喪失感ではなかった。そのことを考えるために、若い頃のマルクスが書いた『経済学・哲学草稿』を参考にしてみよう。

この本はマルクスがはじめて資本主義とは何かを考察しようとした文献なのだけれど、その「第一草稿」のなかに「疎外された労働」という章がある。この章でマルクスは、資本主義は疎外された労働の産物だということを書こうとした。

マルクスは次のように述べている。すべての生産物は労働の結果として生まれる。だから、本来は、生産物は労働者のものである。ところが資本主義のもとでは生産物は資本家のものになってしまう。労働者にはわずかな賃金が支払われるだけだ。このことをマルクスは、生産物からの疎外と呼んだ。しかも問題はそれで終わるわけではなかった。労働者のつくりだした生産物が、次には労働者を支配、管理するシステムをつくりだし、労働者はこのシステムに支配、管理されながら、ただただ命令にしたがって単純な作業をくり返すようになる。それは労働から働いているという現実感を失なわせ、労働は肉体的、人間的な消費でしかなくなっていく。マルクスの言う労働の疎外の発生である。

わかりやすく述べれば次のような意味である。近代以前の社会では、生産物は農民や職人たちのものだった。もちろん農民にはかなり高額な年貢¹租税や地代が課せられていたが、それは農民が自分の所有物から税や地代を払うという仕組²だった。今日私たちが自分の所得から税や家賃を払うのと、仕組としては変わらないのである。

甲 ところが資本主義になると生産物はすべて資本家のものになってしまった。もちろん労働者には賃金が支払われる。だがその賃金は機械や原材料、エネルギーなどの購入代金と同じ位置づけであり、いわばコストであって生産物の分配ではない。 **A** 人間労働の代わりをする自動化された機械が生まれれば、労働が機械にとって代わられるというようなこともおこるし、高い原材料を購入してしまったために経営が破綻するのと同じことが、高い賃金で労働者を雇ったときにもおこるのである。

ところがさらに次のような問題がある。仮に十人の労働者で年間一億円の生産物をつくっている企業があったとしよう。もしも労働者一人あたりの年間賃金は三百万円だったとすると、十人で総額は三千万円である。さらに生産をするために必要な原材料費や機械の償却代、エネルギー代などが年間二千万円かかったとする。この場合残った五千万円は資本家の懐³に入ることになる。ところが資本家はそこから二千万円だけを懐に入れ、三千万円は設

備投資に使ったでしょう。その結果翌年には二十人の労働者が働くようになり、生産額は二億円になった。そしてこのような設備投資が毎年繰り返されていき、いつの間にかこの企業は一人が働き、一千億円の生産額をもつ企業になった。

このようなケースでも、企業を大きくしてきたのは労働者の労働である。 **B** 労働によって生まれた生産物による代金の一部が設備投資に回されながら、この企業は大きくなっていったのだから。ところがその結果として次のようなことがおこる。はじめに十人で働いていたときには、十人の労働者が協力し合いながら、物をつくっていた。一人一人が複数の工程を受け持ち、まるで共同作業場のような雰囲気があった。 **C** 一万人の工場ができてしまうと、分業は徹底され、作業効率が徹底的に管理されるようになっていった。労働は単純な作業のくり返しになり、監視されながら黙々と作業をつづけるのが労働になった。自分たちの労働によってつくりだした生産物の一部が設備投資に回されて、つまり自分たちの労働の成果によって、自分たちの労働がつまらなく、厳しいものになっていったのである。そしてそのことによって、現実には働いているのに労働が喪失していくという現象が発生していた。命令にしたがって作業をくり返しているだけであり、人間的労働はどこにもない、そんな現実感のない労働の世界が生まれた。マルクスが **D** として抽出したのはそういうことである。それをマルクスは労働から労働の現実性が剝離はくりしているとも述べた。とともにこのような労働が資本主義をつくりだしていったと『経済学・哲学草稿』におけるマルクスは述べていた。

ところがこのような状態におかれるようになると、次々にいろいろな疎外が発生してくると彼は考えていた。^②近代以前の社会では、人間たちは労働をとおして自分の能力を高めていった。ところが資本主義のシステムのもとでは、労働は肉体的、人間的な消耗にすぎなくなり、能力が高まるどころかそれまでもついていた能力まで減退させていくようになる。それは人間の間からの疎外を生んだ。現実には生きているのに生きているという実感が薄く、ここに自分があるのにどこに自分があるのかよくわからない。つまり人間の自己喪失という問題が発生したのである。

さらにこのような状況のもとでは人間の自然性が失われ、人間の自然からの疎外が発生するとともに、人間本来の姿として結び合つてともに生きていた人間がバラバラな個人になり、個人の利益のみを追求しながら、個の類からの疎外も成立していく。

マルクスが『経済学・哲学草稿』の「疎外された労働」の章で述べているのは、簡単に述べればこのようなことである。この文献はマルクスがはじめて資本主義と向き合ったときのものであり、必ずしも十分な理論展開がなされているわけではない。経済学の研究も十分だとはいえないし、そもそもが完成された論文ではなく「草稿」である。にもかかわらずマルクス研究では、ソ連や中国、各国の共産党などの公式マルクス主義とは異なる立場をとる多くの人がこの文献を重視してきた。その理由は若い頃のマルクスの問題意識を示すものであるばかりでなく、^③資本主義における人間の問題を考えるうえでも重要なテキストの役割を果

してきたからである。

(内山節『新・幸福論』新潮社)

問一 傍線部①「熱狂」とありますが、この文章における「熱狂」の例として適切なものを、ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 能力に応じて賃金が支払われるようになり、労働者の能力が著しく伸展していったこと。
- イ 資本家が設備投資とシステム効率化を図り、大量生産によって多額の収入を得ていったこと。
- ウ 大規模な生産体制になるにつれ労働者たちの団結が強まり、生産性が向上していったこと。
- エ 現実から剝離した労働のため、労働者は多くの賃金を得て購入意欲が高まっていったこと。

問二 段落【甲】の二重傍線部はどのような問題について述べていますか。その内容を端的にあらわしている言葉を段落【甲】よりも前の本文中から八字で抜き出ささい。

問三 空欄【A】～【C】に入る言葉をア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア さらに イ なぜなら ウ さて エ だから オ ところが

問四 空欄【D】に入る言葉としてもっとも適切なものをア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 熱狂と喪失感 イ 経済学 ウ 現実性の剝離
- エ 労働の疎外 オ 近現代の喪失

問五 傍線部②「近代以前の社会では、人間たちは労働をとおして自分の能力を高めていった」とありますが、その例としてもっとも適切なものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人々は労働の対価として生産物を手に入れて、そこから税金を納めつつ、あらたな投資を行うことによってより多くの生産物を手に入れるようになっていった。
- イ 貨幣が価値の基準となっていない時代では、生産物の総量がその個人の能力をしめしていたため、できるだけ多くの人を雇いつつ生産量を増やすようになった。
- ウ よりよい物を作り出すため、監督者のもと高度に分業化しつつ作業を単純化するように工夫し、安定して高品質な品物を多数生産できるようになっていった。
- エ 人々は、知識と技術を身につけつつ試行錯誤しながら、次第に良い品を作ることができるとようになっていった。

問六 傍線部③「資本主義における人間の問題」とありますが、マルクスの『経済学・哲学草稿』から読みとれる「資本主義における人間の問題」として含まれるものを次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 労働者の生産物は資本家のものとなり、それが労働者を管理するシステムを生み出すこと。
- イ 人々が協力して物を作る中で、その生産物の分配をめぐる争いが起こってしまうこと。
- ウ 貨幣が価値基準となり、労働者は賃金をもらい必要なものを購入するようになること。
- エ 年間一億円の生産物があった企業が、設備投資によって年間二億円の生産物を得ること。
- オ 働くことが生きているという感覚に結びつかず、自分の存在自体の実感も薄れてしまうこと。

4 近年、AI（人工知能）やロボット技術の進展が著しいが、そのような先端技術との共生を目指すためにはどのような価値観が必要になると思いますか。一四〇字以上、一五〇字以内で述べなさい。

注意事項

- ・ 解答欄の一マス目から書きなさい。
- ・ 句読点や記号が一番上のマス目に入ってもよい。
- ・ 記号も一字とする。
- ・ 漢字で書けるものは漢字で書くようにすること。

受験番号	受験番号
氏名	

合計

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
山中の賊を破るは易く、心中の賊を破るは難し。	(1) イ	(1) イ	(1) イ	(1) たくわえ	(1) ①	(1) イ
	(2) オ	(2) エ	(2) ア	(2) もりや	(2) ②	(2) ウ
	(3) ア	(3) イ	(3) カ	(3) おりふし	(3) ③	(3) エ
				(4) おりいたまいて	(4) ④	(4) キ
					(5) ⑤	(5) ウ
						(5) イ
						(5) エ

送り仮名一箇所取の一点減点
句点二一一点減点

4
30

問六	問五	問四	問三	問二	問一
工	イ	ア	イ	イ	工

3
30

問六	問五	問四	問三	問二	問一
ア	工	工	工	生	イ
			カ	産	
			B	物	
			イ	の	
			C	疎	
			オ	外	

3
30

設問の特性上、解答例なし

4
10